

全研本社（東京）が開発した「県内外の約百二十人が学べる」インターネットを利用した遠隔学習システムを使用。マイクとカメラを用いてテレビ電話のように講師と受講者が会話できるほか、受講者の画面に指示を書き込んだり、講師が代わりに操作したりと、従来の教室と同じような授業をインターネット上で行うことができる。授業で使う資料も、事前に電子メールで送信、受講者がプリントアウトする。

「対話式の感覚」 気兼ねなく質問

は葉で確実に指示しなければならない。言葉の選び方によつては、相手を不快にさせてしまふこともある」とコミュニケーションの難しさも指摘する。

二カ月前から受講している長崎正明さん(六二)は、秋田市金足二是、インターネットやメールの使い方などを学んでいる。

パソコンを始めたのは六年

前畠内会長を務めることはな
り、文書を作成しようと購入。
前年に大病を患い、インターネ
ットで健康情報を得たいとも考
えていた。

屋で、一人で教えてもらっていて、いるのと同じ感覚と長崎さん。現在は週二回のペースで受講している。

P C で 双 方 向 授 業

も、ほかの人があ
一緒にから質問
しづらかった」
と振り返る。

県内の大学などで非常勤講師を務める瀧森威さん(五〇)・秋田市旭川二が開いているパソコン教室。操作の基礎から、情報処

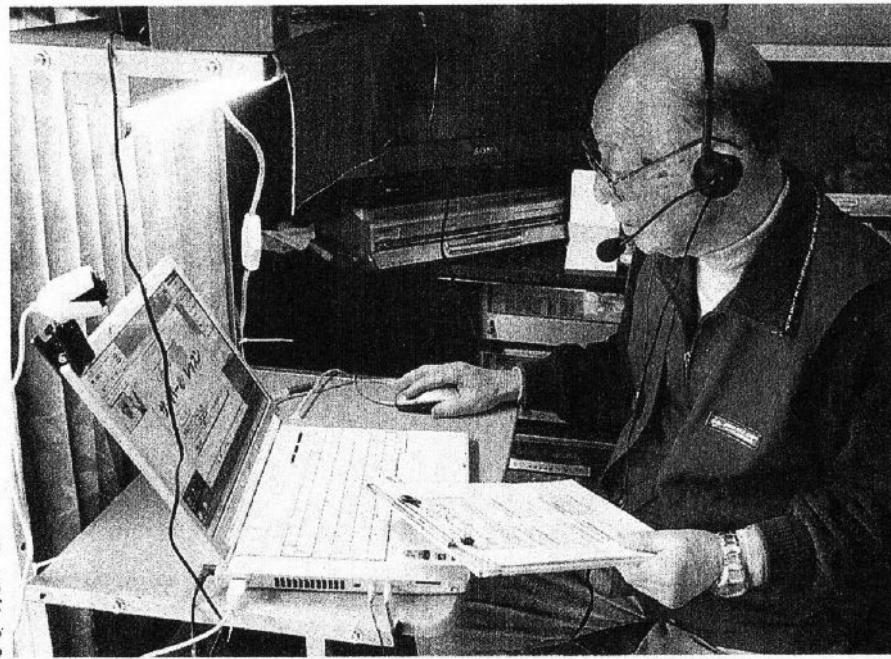
どで活用されている通信教育。その利点を生かしながら、音声で指導したり、カメラで顔を合わせたりと、ITを利用して双方の授業を受講できるパソコン教室が登場している。

よほど、情報技術（ＩＴ）の活用が進んでいる。インターネットを利用して、音声や映像で教える側と学ぶ側が双方向でつながったり、電子メールでコミュニケーションを取つたり。県内でもＩＴを使った新しい学びの場が生まれている。

きな特長。一年半ほど受講している秋田市牛島の女性(五三)は「移動に時間がとられないで、主婦にとつても楽」と話す。

ただ、受講するには、専用のソフトが作動するためのある程度のパソコンの性能と、プロードバンド環境が必要。一方、瀧森さんは「通常の教室の授業では、言葉より動作で伝わる部分が大きいが、バーチャル教室で

懸け橋は IT



【問合せ先】
e-gakko Taki あきた 教室
TEL&Fax 018(832)2611
E-mail taki@zpost.plala.or.jp

1892年(明治25年)3月10日第3種郵便物認印

1874年(明治7年)創刊



発行所 秋田魁新報社
秋田市山王臨海町1番1号
〒010-8601
©秋田魁新報社 2007年

第41685号

10面に掲載